

スクーバダイバーの健康管理に関する調査研究

1114022 平 尚起 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

I. 緒論

スクーバダイビングにおける事故は後を絶たず、2013年におけるレジャーダイビング事故報告における事故原因では、健康状態に対する不注意が、知識・技能不足に次いで高い割合を占めている。本研究では、ダイバーの健康や生活習慣に対する意識を明らかにするとともに、ダイビング実施前に実施することが推奨されているセルフチェックと血圧測定を実施してもらい、ダイビング実施当日におけるダイバーの健康状態を把握することを目的とした。

II. 方法

三浦、川奈、大瀬崎(2015年9月～11月)においてダイバーを対象に質問紙調査と血圧測定を実施した。質問紙は性別、年齢、経験本数、血圧、生活習慣および健康管理に関する意識、経験したことがある症状、セルフチェック、健康管理方法(自由記述)で構成した。

III. 結果

177名のダイバーから得た回答のうち、記入漏れのない137通を分析の対象とした。血圧の測定結果から、40歳代以上では収縮期血圧の値にばらつきが大きくなり、個人差が大きいことが示された。「ダイビングを実施する前日には飲酒や喫煙を控えている」(66.2%)、「日常的に運動やトレーニングを実施している」(48.2%)との回答を得た。また、ダイビングの際に経験したことがある症状では、耳抜き不良(35.6%)が最も多く、リバースブロック(4.3%)、窒素酔い(2.9%)、減圧症(1.4%)等の計52名(38.8%)の回答であった。セルフチェックでは、体のだるさを感じている、睡眠が十分ではない、食欲がない、飲酒による体調不良があるなどの自覚症状があるにもかかわらずダイビングを実施していることが把握できた。男女別に見た、喫煙習慣と飲酒習慣では男性では多く、女性に少ないことが把握された。

IV. 考察

ダイビング前のセルフチェックから、ダイバーの潜水直前の健康状態の確認が重要であると考えられた。また、年齢や経験による意識や健康状態の違いが認められ、40代以降のダイバーにおける健康管理の重要性が認識できた。またセルフチェックへの記入や健康状態の確認が重要とわかっていても、積極的な取り組みは少ないと考えられた。

V. 結論

ダイバーの健康や生活習慣に対する意識を把握することができた。ダイビング直前のセルフチェックと血圧測定から、ダイビングを避けて休養を取るべきと考えられる事例が認められた。

主な参考文献

2013年におけるレジャーダイビング事故報告 (Alert Diver vol.59)

レジャー・スクーバダイビングにおける事故の傾向に関する分析 (蓬郷尚代・千足耕一, 2012)